

令和五年学力検査

全日制課程

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐこの表紙に受検番号を書きなさい。続いて、解答用紙に氏名と受検番号を書き、受検番号についてはマーク欄も塗りつぶしなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙のマーク欄を塗りつぶしなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、解答することをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

| | | |
|------|---|---|
| 受検番号 | 第 | 番 |
|------|---|---|

国語

— 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(原研哉『低空飛行——この国のかたちへ』による)

(注)

- ①⑤は段落符号である。
- 安寧ニ穏やかで平和であること。
- 殺伐ニすさんでいるさま。
- 反芻ニここでは、一つのことを繰り返し思い、考えること。
- モスクニイスラム教の礼拝堂。
- 数珠つなぎ多岐ニ多くのものをひとつなぎにすること。
- 蔓延ニ広がること。
- 蹂躪ニ踏みにじること。
- 止揚ニ対立する二つのものを高い段階で統一すること。
- 拮抗ニほぼ同じ力で互いに張り合うこと。
- 剪定ニ枝の一部を切り取って整えること。
- ラグジュアリーニここでは、空間から感じられる心地よさのこと。
- しつくいニ日本建築の壁や天井などに使用される塗料の一つ。

(一) 「A」にあてはまることばとして最も適当なものを、次のAから

Eまでの中から選びなさい。

A しかし I それとも U つまり E なぜなら

(二) ① 人が本来持っているはずの自然や環境への感受性 とあるが、その

説明として最も適当なものを、次のAからEまでの中から選びなさい。

A 自然や環境が絶えず変化していくという事実に気づく力

I 人の活動が自然や環境に負荷をかけていることを感じ取る力

U 自然や環境が変化していく姿を数世代先まで予測する力

E 人の活動が自然や環境に与えている負荷をすぐに取り除く力

(三) 次の文章は、ある生徒が第三段落と第四段落の内容をまとめたものである。この文章に対する評価として適当でないものを、あとのアからオまでの中から一つ選びなさい。

人間は、自然をほどほどに受け入れつつ、適度に排除しながら暮らしており、そのバランスを整える営みが掃除である。また、日本の庭は、人為と自然がせめぎ合う「ほどほどの心地よさ」を採し当てることを本質としている。だから、日本の庭は、人為と自然のバランスを整える掃除という営みを、技芸に仕上げたものであると言うこともできる。

ア 本文にある具体例や比喩を省略して端的に記している。

イ 掃除の本質を述べた部分を本文から適切に抜き出している。

ウ 接続語を使用することで論理の構造を明確にしている。

エ 掃除と日本の庭に共通している点を的確に述べている。

オ 日本の庭が技芸に仕上げられた理由を簡潔にまとめている。

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選びなさい。

ア 環境に現れた危機の予兆に接した私たちは、地球という資源の限界に気づき、持続可能な社会について考えるようになった。

イ 掃除という営みと切り離せない日本の庭は、日本的な他者への思いやりを表現しており、海外でも高く評価されている。

ウ 環境問題を解決するためには、文化や文明の力を最大限に引き出し、人為と自然のバランスを回復させる必要がある。

エ 日本の空港で居心地の良さを感じるのには、床が隅々まで磨きあげられ、シミひとつない新しさが保たれているからである。

(五) あとのアからオまでは、本文と次の参考文献を踏まえて筆者の考えをまとめたものである。その内容が本文と参考文献に書かれた筆者の考えに近いものを一つ選びなさい。

(参考文献)

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(原研哉『はらげんや 低空飛行——この国のかたちへ』による)

(注) ○ 欄干^{らんかん}が落ちないよう橋の両縁に設けられた欄状のもの。
手すり。

ア 本文も参考文も、自然の猛威から人々の生活をいかにして守るかということが共通のテーマになっている。

イ 本文も参考文も、人工的なものではなく、ただ排除して自然を後世に残そうという考えが柱になっている。

ウ 「庭」も「沈下橋」も、自然のもつ荒々しさを受け入れて環境を整えながら生きる暮らしを象徴している。

エ 「沈下橋」は「庭」とは異なり、自然の猛威から逃れようとすることのむなしさが表現されている。

オ 「庭」と同様に「沈下橋」は、自然との共生を図りつつデザイン性を高めることを意図して作られている。

二 次(一)から(三)までの問いに答えなさい。

(一) 次の文中の傍線部①、②に用いる漢字として正しいものを、それぞれ

① あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

② ヒ|ヨク^{①②}な大地が広がる。

① ア 肥 イ 被 ウ 非 エ 比

② ア 浴 イ 翼 ウ 翌 エ 沃

(二) 次の文中の傍線部と同じ意味で用いられている漢字として正しいものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

敵^{てき}かな雰囲気の中で卒業式が行われた。

ア 敵^{てき}選 イ 敵^{てき}肅 ウ 敵^{てき}禁 エ 敵^{てき}守

(三) 次の文中の「A」にあてはまる最も適切なことばを、あとのアからエまでの中から選びなさい。

科学技術は「A」の発展を続けている。

ア 東奔西走 イ 不易流行 ウ 一触即発 エ 日進月歩

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

(本文にいたるまでのあらすじ)

気象学者である藤巻^{ふじま}先生の研究室に所属している大学三年生の「僕」は、先生の息子で中学三年生の和也^{わや}の家庭教師をしている。一九七五年の夏のある日、「僕」は藤巻先生の奥さん(ヌミ)の招きにより、藤巻家で一緒に食事をとることになった。

〔本文〕

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(瀧羽麻子『博士の長靴』による)

(注)

- [1] [5] は段落符号である。
- 眉根まゆね 眉の鼻に近い方の端。
- 納戸なと 物置部屋。
- 超音波風速温度計 超音波を利用して風速と温度を測定するもの。
- せきを切る 抑えられていたものが一気にあふれ出る。
- きびすを返す 引き返す。後戻りする。
- 目をすがめる 片目を細くして見る。
- 巻積雲けんせきぐん 空の高いところに浮かぶ、まだら状の雲。うろこ雲。
- 陰翳いんえい 薄暗いかげ。

(一) 「A」、「B」にあてはまる最も適当なことばを、次のアからカ

までの中からそれぞれ選びなさい。

- ア いたずらに
- イ いぶかしげに
- ウ うっかりと
- エ こつそりと
- オ しなやかに
- カ とつくりと

(二) ① 自分から水を向けた とあるが、その説明として最も適当なものを、

次のアからエまでの中から選びなさい。

- ア 「僕」が和也の絵を見たいと奥さんに申し出たということ
- イ 「僕」が藤巻先生と二人で和室に残ったということ
- ウ 「僕」が藤巻先生に借りている本の話をしたということ
- エ 「僕」が奥さんと和也の姿を目で追ったということ

(三) ② 無言で部屋を出ていった とあるが、和也がこのような行動をとる

までの心情の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選びなさい。

ア 父親に対してわだかまりを抱いていたが、父親が自分を認める発言をしたことをきっかけに心が浮き立った。しかし、絵を持つてきた際の父親の反応に傷つき、その感情は失望へと変化した。

イ 父親に対して卑屈になつていたが、父親が自分を評価していたことを知って自尊心が回復した。しかし、父親の発言が本心ではなかったことがわかり、その感情は落胆へと変化した。

ウ 父親に対して尊敬する気持ちを伝えられずにいたが、父親が自分の親しげな様子に、その感情は憎しみへと変化した。

エ 父親に対して不愉快な気持ちを抱いていたが、気象研究の無意味さを指摘して父親をやり込めたことで心が晴れた。しかし、幼い頃の失敗を持ち出されて、その感情は恥ずかしさへと変化した。

(四) ③ 「わからないひとだよ、きみのお父さんは」という発言に込められた「僕」の心情として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選びなさい。

ア 空や雲が大好きだった和也が、実は今でも父親を慕っていることをほほえましく思いつつ、息子に対して素直になれない藤巻先生の思いを代弁しようと思つている。

イ 和也の絵を見たいと言つていたのに、絵を持つてきた和也を無視する藤巻先生の真意が理解できず、自分も和也と同じ気持ちであることを示そうと思つている。

ウ 藤巻先生は気象研究にしか興味がなさそうに見えるが、実は和也の将来を考えており、単純には理解できない魅力をもった人物であることを伝えようと思っている。

エ 幼い頃の和也が空や雲に強い関心をもっていたにもかかわらず、気象学の道を歩ませようと思わない藤巻先生に疑問を感じ、所属する研究室を変わろうと思っている。

(五) 次のアからオは、この文章を読んだ生徒五人が、登場人物について、意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれていることに近いものを二つ選びなさい。

ア (Aさん) 和也の父親である藤巻先生のユニークな人柄が大変興味深く描かれていると感じます。先生は、気象のしくみを知りたいという純粹な好奇心の持ち主として描かれており、だからこそ、わからないからおもしろいという先生のことばには説得力を感じます。

イ (Bさん) 先生の奥さんは、夫である先生に理解があるのでしょうか。先生が和也の気持ちに気づいていないときも、いつものことだと冷静に対応しています。本文に描かれた場面でも、先生が自分の研究分野について一方的に話をすることを当然のことのように受け入れています。

ウ (Cさん) 和也は対照的な考え方もつ両親の下で複雑な思いを抱いています。ふだんは陽気で活発な性格ですが、両親に対しては反抗的で、皮肉っぽい言動が目立ちます。時折、甘えた態度は示しますが、いらいらした気持ちを解消することはできていないように見えます。

エ (Dさん) 先生は、和也の気持ちに気がつかないときがあるようです。悪気があるわけではなく、ひとつのことに集中すると他のことに気がまわらないようです。先生はそのことを自覚して反省しているようですが、和也には自分が悪かったという思いを伝えきれていません。

オ (Eさん) 和也に対する先生の態度にはもどかしいところがあります。また、息子から見たら先生はよくわからない人なのでしょう。母親も二人のことを心配しているもの、間をうまく取りもていないようです。家族とはいえ、人と人との関係は難しいものです。

(六) この文章の表現の特徴として適当なものを、次のアからオまでの中から二つ選びなさい。

ア 作者からの登場人物への評価を挿入することにより、場面全体に奥行きをもたらしている。

イ 擬態語を随所に用いることにより、登場人物の心情が理解しやすい描写となっている。

ウ 専門的な用語を平易なことばに言い換えることにより、全体を通してわかりやすい印象を与えている。

エ 登場人物の一人が語り手となることにより、読者がその人物の心情を追体験できるようになっている。

オ 隠喩を効果的に用いることにより、登場人物の心情が直感的に理解できるようになっている。

四 次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

後漢の魯恭字は仲康、扶風平陵の人なり。肅宗の時、中牟の令

扶風平陵の出身である。中牟県の長官

に拜せらる。専ら徳化を以て理むることを為し、刑罰に任せず。郡国に

地方に

螟ありて稼を傷ふ。犬牙の縁界も中牟に入らず。河南の尹袁安之を聞

害虫が発生して田畑の畷境が複雑に入り組んだ場所でも河南郡の長官であった

穀物を荒らした。害虫は中牟県内に入らなかった。長官であった

仁恕の掾肥親をして往いて之を廉さしむ。仁恕という役職にあった肥親に中牟を視察させた

恭阡陌を随行し、俱に桑下に座す。雉有り過ぎて其の傍らに止まる。

あせ道。キジが目の前を通り過ぎて

傍らに童児有り。親曰はく、「兒何ぞ之を捕らざる。」と。兒言ふ、

坊やはどうしてキジを捕まえないのかね

「雉方に雛を將ゐる。」と。親、瞿然として起ち、恭と訣れて曰はく、

驚いて立ち上がり別れる際に

「来たる所以の者は、君の政迹を察せんと欲するのみ。今虫境を犯さ

理由は あなたの治政を視察しようと思つたから

ず、化鳥獸に及び、豎子に仁心有り。三の異なり。」と。府に還り状を

子供にも思いやりの心が備わっています

以て安に白す。

報告した

（『蒙求』による）

（注）○魯恭・袁安・肥親はいずれも中国古代の王朝である後漢の家臣。

○字は中国で、男子が成年後、実名のほかにつける別名。

○肅宗は後漢の皇帝。

(一) 専ら徳化を以て理むることを為し、刑罰に任せず とあるが、その

説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選びなさい。

ア 徳の高い人間ではなく、法律の専門家を重んじているということ

イ 人民の徳が高まらないため、刑罰に頼っているということ

ウ 刑罰に頼らず、徳による教養で世を治めているということ

エ 世の安定よりも、自分の徳を高めることを優先しているということ

(二) 波線部アからエまでの中から、主語が同じものを全て選びなさい。

ア 其の実ならざるを疑ひ とあるが、何を疑っているのか。その内容

として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選びなさい。

ア 害虫による被害をまぬがれた県の中で、魯恭が治める県だけは穀

物が実らなかつたこと

イ 魯恭が治める県には害虫が侵入せず、穀物の被害が生じなかつた

こと

ウ 害虫が発生したことにより、魯恭が治める県でも多くの人々が飢

餓に苦しんだこと

エ 多くの県が害虫の対策に取り組む中、魯恭が治める県が最も早く

駆除に成功したこと

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていること

と一致するものを一つ選びなさい。

ア 袁安は視察に向かつた先で魯恭に出会えたことを喜んだ。

イ 袁安は魯恭が治める県が自然の豊かな土地であることに驚いた。

ウ 肥親は子供からひなを守ろうとした親鳥の姿を見て感動した。

エ 肥親は魯恭の善政が県全体に及んでいることに感心した。

（問題はこれで終わりです。）